

「わかったつもり」を超えて

木下順二の戯曲「夕鶴」。教科書にも載ったことがあり、「鶴の恩返し」の昔話としても私たちの耳に馴染んだお話です。そこで、質問です。

「つうは、なぜ、美しい布を織ったと思いますか」

ア 恩返しをするため

イ お金持ちになるため

ウ よひょうと楽しいひとときを過ごすため

エ わからない

即答で返ってきそうです。

「ア 恩返しをするため」に決まってるでしょ。

本当にそうでしょうか。もう一度、文章に即して吟味してみましょう。

「何のむくいも望まないで、ただあたしをかわいそうに思っ
て矢を抜いてくれた。それがほんとうに嬉しかったから、あたしは
あんたのところに来たのよ」「あとはあんたと二人きりで、この
小さなうちの中で、静かに楽しく暮らしたいのよ」

さて、もう一度問います。

「つうは、なぜ、美しい布を織ったと思いますか」

今度は、どうでしょうか。

「ウ よひょうと楽しいひとときを過ごすため」を選ぶ人が多くな
るはずですよ。

私たちは、一読して「わかったつもり」になっていることがいか
に多いことか。関連する細部を読み飛ばしたり、「恩返し」の文
脈にとらわれて思いこみで理解していることがいかに多いこと
か。

言語活動の充実が叫ばれています。読み取ったことを交流
する話し合いでは、安易にステレオタイプの物語の型にあては
めて空疎な話し合いになっていないかを注意する必要があります。

まずは、しっかり読み取ること。文章記述に根拠を求めた読
みが大切です。

「わかったつもり 読解力がつかない本当の原因」光文社新書 西林克彦 著
P152～参照

経験者研修Ⅱ「介護体験研修」に参加しての感想より

「介護体験研修」

・ お年寄りの方々へ接することを通して、児童一人一人をよく観察し、「今、必要な支援は何か」を考え、実践できる教師になりたいと感じた。

・ 短い時間の情報の共有化、伝える情報の精選の仕方など介護士の方々の具体的でシステム化された内容にプロ意識を感じた。研修を通して仕事への責任感、誠心誠意を尽くしてつとめる事など仕事に対する姿勢を見つめ直すことができた。



子どもたちの心のケアについて

＝ 教職員から保護者へのアドバイス ＝

子どもたちの繊細な心の動きを見逃さないために、学校での子どもたちの様子を観察しながら、場合によっては保護者の方に対して次のようなアドバイスを行う必要があります。

- ・ コミュニケーションの大切さを強調しましょう。
- ・ 子どもたちが恐れや不安について話すことを聞く姿勢をもちましょう。
- ・ 何をどう感じているのか、どう考えているのか、子どもたちが話すことに耳を傾けましょう。
- ・ 子どもたちに恐れや不安があっても、子どもたちの生活を制限したり、変える必要がないことを知らせましょう。子どもたちが自分の不安によって、何らかの犠牲を家族に強いているように感じると、現在の不安に自責の感情が加わってしまうからです。
- ・ 頼れる親(おとな)のイメージの回復に努めましょう。

「心の復興を目指した子どもの心のケア」
研修用テキスト 総合教育センター P13～参照

初任者研修「授業研修③」より

～ 板書の仕方とその工夫 ～

板書は「子どもの学習理解を助け、思考活動を活発にする」ことをねらいとしています。

そのため、子どもの発言の要旨、子どもの発言どうしの相互関係、学習のねらいの焦点化を図り学習全体を構造的にまとめることが必要です。

「よい板書の条件」

- ・ 正しい文字、美しい文字、色取りがよい。
- ・ 内容が精選されている。 → 的を得た見やすい板書
- ・ めあてとまとめが整合していて、学びの流れが一目瞭然である。 → 構造的な板書
- ・ 子どもへの気付きや発言が生まれる。 → 子どもと共に作り上げる板書

「よい板書のもつ効果」

- ・ 学習の意欲化、必要感を生みます。
- ねらいから問題解決に至る過程がわかり、子どもが常に振り返れます。
かかわり合って学んだ足跡がわかります。(認め合い、共に学ぶ、自己存在感)

平成20年度「よい授業」のすすめ

街路樹2～8、18、20、21、23号を参照 総合教育センター